

王陽明

2014 年追試

問 4 知ることと社会的実践との関係についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

14

- ① ムスリムは、ジハードを義務づけられている。ジハードとは、聖典を通して知られる神の意志に基づいて、神の定めた正義を世界に広めるよう奮闘することである。
- ② 王陽明は、朱子学を知性偏重であると批判して、知ることはいの始めであり、行いにより知ることが完成する、と説いた。この考え方は居敬窮理と呼ばれ、社会を導く知識人が実践すべきものとされる。
- ③ ガンディーは、自らの政治運動において「真理把持」を意味するサティヤーグラハの理念を掲げた。そこで重視されたのが、仏教やジャイナ教でも共通して説かれたアヒンサー(不殺生)の実践である。
- ④ プラトンは、『国家』において、知恵の徳をそなえた哲学者が、防衛者階級・生産者階級を治めることを理想の統治のあり方とした。この体制は哲人政治と呼ばれる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	14	②	3

2006 年追試

問 2 知のあり方については、日本や中国にも真摯しんしに取り組んだ思想家たちがいる。彼らに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

5

- ① 「道は、もと学問をして知ることにあらず」とは、歌学ではなく儒学の研究をしなければ、人倫の道は分からないという本居宣長の立場である。
- ② 「知足安分」とは、学問的知識を充足させることによって、すべての人々に幸福に生きるための安心感が分与されるという石田梅岩の立場である。
- ③ 「知行合一」とは、良知を發揮することが聖人の学問であり、知るべき道理と実践主体とを分けてはならないという王守仁(陽明)の立場である。
- ④ 「智恵出でて大偽あり」とは、智恵を十分に使用しないのは偽りのもとなので、直感に頼らず学問に精進すべきだという老子の立場である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	5	③	3